



方言を残すために

今野葉月、池田あかり

背景・目的

方言を聞く機会が最近少なくなったと感じた

方言を使う人が減ると、、、

- 地域の文化、魅力が失われる
- 地域の繋がりが薄れる

そこで私達は地元に残る数少ない伝統である庄内弁を守っていきたくと思った。庄内弁を残すための方法、また、庄内弁に魅力を感じ、方言を理解できるような案を考える

すでに分かっていること

・方言を残すためにラジオ、新聞などのメディアで活動している人、団体がいる。山形、酒田にもいる。

・周りで方言を話す人が少ない、話す機会が少ない。

・日本語の方言・言語の中の8つが消滅の危機にあるとされている。

※方言は、相手と距離を縮めて楽しく交流するという役割を持っている。近年では温かさや親しみを感じさせるものとして受け止められている。

仮説

・方言が使われなくなった理由を調べ、その原因を解決すれば残せるのではないか。

・原因の一つには私達、若者が使わなくなったことがあるのではないか。そのため、方言の保護には若者に興味を持ってもらうことが必要なのではないか。

研究の方法

- ①インターネットなどで方言についての知識を得る
- ②酒田市立資料館に行きインタビュー
- ③酒東生に方言についてアンケート
- ④他の研究から方言を残す方法を探る
- ⑤それらをもとに自分たちなりの方言を残す方法を考える

結果

酒田市立資料館さんへのインタビュー

○昭和初期、方言を良くない話し方とし、共通語に直そうとする言語矯正運動が全国各地の学校を中心に行われていた。

※方言が他の地域に通じない、恥ずかしいといった思いから使わない人が増えた。

実際に活動している人へのインタビュー

○庄内弁のかるたを作る・販売する

○小学校での講演会

世界での取り組み

○地域の言葉での教育・授業(ハワイ州)

○動画(口述)で記録(インド・オリッサ州)

○絵本(日本・琉球諸語)

結論

世界中で方言を残す活動が子どもを対象に行われている。方言が話されなくなった背景には方言への考え方が影響している。

考察

話されなくなった原因は方言へのマイナスイメージが浸透してしまったと考える。

残したいと考え、行動する人は少ないので、消滅を遅らせることは出来るのではないか、と思う。

活動案

○パンフレット配布

○方言かるた

○クイズ

○教育に取り入れる

今後の展望

自分たちで考えた案を実際に行って、どのような効果があるのか調べてみたい(効果を実感するには時間が掛かると予想するため)。

どのくらいわかるようになるのかも調べたい。

参考文献

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/index.html

<http://ww4.tiki.ne.jp/~rockcat/kougi01.html>

<https://spaceshipearth.jp/endangered>
研究に協力してくださった方:酒田市立資料館の職員の方、酒東生のみなさん